

# テーマ：自然

対象年齢：3、4歳児

# 東品川保育園（品川区）

## テーマ設定の理由：

四季を感じられる広い園庭を活かし、「自然」をテーマとして設定する。子どもたちは自然の中で生活を送り、園庭で見つけた虫を保育室で育てたり、野菜を栽培したり、落ち葉や花を遊びに取り入れたりしている姿が見られることから、自然と関わる体験を通して、子どもたちの好奇心や探求心を深め、その中で命の大切さや季節の変化に気づき、豊かな感性を育てていくため。

## 事例①：色水遊び（4歳児 8月）

活動のねらい：朝顔を使って色水を作ることを楽しんだり、色の変化に興味をもったりする

用意した環境：朝顔、透明の袋、水

活動内容：袋に園庭の朝顔と水を入れ、揉んだり振ったりして色水を作る



## 子どものつぶやき・発見・気づいたこと

- ・「こすったら色が出るよ」という友達の声を聞き、全体をこすったり、花びらを指先でこすったり、揉んだりする等、色々試していた。
- ・袋の水を覗き込み、「プールの中みたい」「目がぐりんってなる」など、水を通して見える世界を言葉で表現していた。
- ・水に色がついてきて、袋に気泡がついていることに気付くと、「ぶどう味の炭酸になってきた」と想像を膨らませている子もいた。

## 保育者の気づき

- ・同じテーブルに座った友達同士で「こするといいよ」「揉むといいよ」と色の出し方を伝え合っていた。
- ・“どこをどのようにこすったり揉んだりするといいか”を考え、色々な方法を試していた。
- ・水を通して見える世界を言葉で伝えたり、「見てごらん」と保育者や友達に見せたり、そばにいる保育者や友達と共有したい気持ちが芽生えていた。
- ・色水から味や場面を想像するなど、子どもたちの想像力は無限大であると感じた。

### 事例②：虫を探そう！（3歳児 11月）

活動のねらい：身近な生き物に興味・関心を広げ、不思議さや面白さを感じる

用意した環境：バケツ、シャベル、図鑑、観察用拡大鏡、机

活動内容：・虫を探す

・見つけた虫を観察したり、調べたりする



### 子どものつぶやき・発見・気づいたこと

- ・以前見た時に虫がいた場所を覚えていて「ここにいるんだよ」と周りにいる友達や保育者に知らせて探し始めた。保育者が「ここにのっているかな」と図鑑を見ていると一緒に覗いて見ていた。その後、捕まえた虫を「新しい虫かもしれない」と自ら図鑑を手にとって見ていた。
- ・保育者が観察用拡大鏡に虫を入れると、「大きく見える～！目があつた！」と発見を喜んだり虫の動きをじっと見たりして、観察することを楽しんでた。あおむしを観察用拡大鏡に入れ、フンをする様子を見て「何を食べているのかな」とつぶやいていた。

### 保育者の気づき

- ・保育者の観察の仕方に興味を惹かれて、子どもたちが図鑑と虫をじっくり見比べて虫探しの面白さを感じていた。保育者が何か指導をすることよりも、保育者の振る舞いや面白さを子どもが感じられるような関わりが大切だと思った。
- ・あおむしがフンをすると色や大きさを見て「餌」について考えようとしていた。虫をじっくりと観察することで不思議さや探求心をもつことができた。

## 事例③：足立区生物園からきた昆虫に触ってみよう

（3歳児～5歳児 11月）

活動のねらい：様々な昆虫に興味をもち、観察したり触れたりすることを楽しむ

用意した環境：昆虫5種（ヘラクレスオオカブト、ニジイロクワガタ、ギラファノコギリクワガタ、クロカタゾウムシ、ヤエヤマトガリナナフシ）、机、虫メガネ

活動内容：昆虫を観察したり触れてみたりする



### 子どものつぶやき・発見・気づいたこと

- 昆虫を触り「ザラザラしているね」「こっちはつるつるだよ」と、それぞれの感触を確かめていた。
- ヤエヤマトガリナナフシを観察しながら「どこからうんちするんだろう？」とつぶやいた。飼育員に聞いた後さらに観察し、実際にうんちをする瞬間を見て驚いていた。
- ヘラクレスオオカブトを眺めて「何で動かないの？」と飼育員に聞いた。夜行性で今は寝ていることを知り、「じゃあ目はどこにあるの？」と続けて聞いていた。
- クロカタゾウムシを掌にのせて「動き方がアリみたいだね」とつぶやいていた。

### 保育者の気づき

- 図鑑を保育室から持ち出し、実際の虫と照らし合わせてみたり、虫メガネを使用して細部を見たりと、探求心が育まれていた。
- 不思議に思ったことを飼育員にすぐに質問できることで、虫の見え方や生態に対して好奇心が湧いていた。
- 普段は虫が苦手な子どもでも、じっくりと観察したり少し触ってみたりして、興味が芽生えていた。

# テーマ：自然

対象年齢：3、4歳児

# 東品川保育園（品川区）

## 事例④：木育ワークショップ（0～5歳児 1月）

活動のねらい：木材に触れ、想像を膨らませながら感じたり試したりすることを楽しむ

用意した環境：木片、クレヨン、ポスターカラー、グルーガン、かんなくす

- 活動内容：
- ・木片を繋げたり絵を描いたりして遊ぶ
  - ・かんなくすプールで遊ぶ



### 子どものつぶやき・発見・気づいたこと

- ・かんなくすプールを見て「かつお節みたい」とつぶやいていた。
- ・1歳児の子どもが木片を持ち、園庭にあるイチョウの木に近づけ「き！き！」と言って同じ木であることを保育者に伝えていた。
- ・なかなか遊び始められない子がいたが、保育者と一緒に木に触れてみると、少しずつ木片を繋げて形ができる楽しさや様々なものに見立てる面白さに気がついていった。
- ・三角の木片を見つけて「家の屋根みたい」「新幹線みたい」と様々なものを連想し、繋げたり絵を描いたりしていた。
- ・「これはつるつるで色が塗りやすいね」「これはギザギザしているね」等木の色や素材が一つ一つ違うことに気がついていった。

### 保育者の気づき

- ・グルーガンを使いその場で木片を接着できることで、子どもがイメージしたものをすぐに形にすることができたため、興味や集中が継続していた。
- ・幅広い年齢で遊んだが、同じ環境でも、それぞれの発達に合った遊び方で主体的に楽しむ姿があった。
- ・木片同士がぶつかり合っている音を聞いたり、かんなくすの匂いや感触を楽しんだり、音や匂いでも楽しむ姿があった。